

不動の真理

——親を大切にしろよ——

不動の真理

私達の生きていくこの社会は、まさに激動の社会だといえよう。目に見える物の世界は、それが政治であれ経済であれ、年々歳々変化してやまない。そればかりか、目をつむって見る心の世界も、価値観の変容で、何が善か何が悪かの区別さえもつきかね、はたと考え込むこともある。しかし、動く現代社会にあっても、なお、動かしてはならぬ行為の基準というものはあるのではなからうか、私は、そう考えてきた。こうした思いの時、今春、尾道の中学校を、孝養のため退職された八ツ塚実先生のお話を聞き、心底感動すると共に、なお、不動の真理が生きづいていることを確信して、嬉しく思ったものがある。



平成5年4月比治山女子短期大学入学式風景

先生は、「生きている先生」というあだ名がある。いつも、「みんな生きてるんだ。命を大事にし、親を大切にしろよ」というのが口癖くちくせだったからだという。ところが、昨秋、八八歳になられた先生のお母さんが、脳梗塞で倒れられ、その介護のため、退職されることになったのだという。「日頃生徒達に、△親を大切にしろよ▽と教えながら、わが親が病に倒れた今、その面倒を見なければ、私は生徒に嘘をついたことになる」。これが、退職を決意された大きな理由であった。お別れの式後、ぐれかけていた男子生徒が、「先生のお話しに、おれ、涙が止まらんかった」と新聞社に電話してきたというが、このことからしても、身をもって親孝行を実践された先生の教え子からは、恐らく、人の道を逸脱するような者は出てこないであろう。

思うに、「命を大事にし、親を大切にしろよ」とは、このかけがえのない命は、親の限りない慈悲のたまものである、よって、これを大事にすると共に、この命を育てて下さった親に感謝し孝養のまことを尽さねばならない、ということであろう。その親の慈悲に感謝するという孝の心こそは、激動する現代社会にあっても、なお、さやかに生きづかせていかねばならぬ不動の真理だと考える。

今や、希望に満ちた二一世紀という新時代への転換のとき。このときに当たり、目に見える世界の変動に惑わされることなく、心で見る世界の不動の真理に従って、私も亦、学生達に、「親を大切にしろよ、孝は百行の基もとなのだから」と語りつづけていきたいと念じている。